

1 チーム名 (研究対象領域・教科)
 中学部 重複グループ 体育

2 メンバー | 中学部教員 6名

3 チームのテーマ
 「自分でわかってできる授業づくり」

4 対象児童生徒に願う主体的な姿
 活動内容が分かり、自分で選んだり、決めたりしながら運動することができる。

5 研究仮説①
 選択肢の中から、活動内容を自分で選んだり、決めたりしながら、活動の中で「できた」という達成感を味わい、体を動かすことが楽しいという思いを感じられることで、自分から運動することにつながるのではないか。

6 研究実践の内容 (9月23日)

単元・題材名	ボール運動～バスケットボール～
本単元の生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを使った運動には意欲的に取り組むことができ、教師とキャッチボールをすることができる。 ・シュート練習の際にうまくはいらないことで集中が途切れ、活動が滞ってしまうことがある。
本時の生徒のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を果たし、友達と協力して取り組むことができる。 ・相手を意識してボールを投げるすることができる。

めあてに関すること		手だてに関すること		
ねらいの設定	わかる活動	教材・場の設定	教師の支援	活動量
<ul style="list-style-type: none"> ・相手とキャッチボールはできていた。→相手を意識して投げることはできていた。 ・<u>役割と協力は明確ではなかった。</u>本人にとってわかる役割と協力とは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートが入って喜んだり、入らなくて悔しがったりしたので、わかる活動であった。 ・パスからシュートはまだわかっていない様子だった。 ・<u>手本があってもよい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・リングの大きさを大きくし、入りやすくしてはどうか。 ・シュートの位置に目印をつけてはどうか。→ただ、目印をつけると動かなくなるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>対教師のキャッチボールの練習があってもよい。</u> ・生徒の後ろに立ち、「はい」というと、より相手を意識できるかもしれない。 ・シュートの手本を見せるといい。 ・基本的な動きを教えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 3人での活動だったので、<u>一対一の活動がある</u>といい。 ・同じ動きを2回やるといい。 ・<u>繰り返し同じ活動を行うこと。</u> ・<u>動きがゆっくりではあるが、練習により、自信がつく</u>といい。

7 改善策

- ・教師の支援としては、この段階では、個別に手本を見せたり、一緒に投げたりする支援が必要である。
- ・活動量を増やし、繰り返し活動し、さらに理解し自信をつけることができるようにしたい。そのためには、一対一の教師と活動をし、次に生徒同士でできるようにしていく。



8 検証授業の考察（10月12日）

めあてに関すること		手だてに関すること		
ねらいの設定	わかる活動	教材・場の設定	教師の支援	活動量
<ul style="list-style-type: none"> ・相手が教師、生徒によって投げ方を変えていた。 ・より相手を意識して投げていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>繰り返しの活動でわかって取り組んでいた。</u> ・パス→シュートの流れもわかっていた。 ・<u>教師と行う時間があると、とても楽しそうである。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを捕る位置、シュートする位置を教師と確認したことで、<u>生徒同士でもできるようになった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師との個別の練習があり、より意欲的に取り組んでいた。<u>手を出してパスを待つようになった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動量が増えた。 ・キャッチボールの相手によっては、待つ時間があるので、グループ変えは大切である。→次回グループを変えたらさらに取り組めた。

9 成果と課題

対象生徒にとって本単元は好きな活動である。成果としては、本人の様子をビデオで確認すると、理解ができているところ、できていないところが実際の体育の授業よりも細かにわかって気づいた部分が多かった。行動がゆっくりな面があるので、本人の行動の読み取りを見落としがちなどころはある。体育の授業の中で、具体的に手本を見せたり、一緒に取り組んだりすることが必要であり、そこでの活動の確認などの個別の支援が大切であることがわかる。今回の単元では、仮説である「選んだり、決めたり」という場面はなかったが、まずはじっくりと教師とかかわりながら活動に取り組み、活動内容ややり方を理解していくことで、意欲へとつながったようだ。また友達同士での活動へと幅が広がっていくと思われる。

課題としては、本人は、教師と一緒に取り組み、できるようになり、ボール運動の楽しさを感じていたが、本人自身ができたかの確認ができるような場面や教材を作っていければと思う。